

# 報道関係者のためのレジюме

07年8月26日、ファスレーン365日本実行委員会の記者会見

実行委員会代表 豊島耕一

## 要点

日本の市民有志12名は、去る7月25日、現地の活動家たちの支援を受けて、イギリスの大量破壊兵器が配備されているファスレーン英海軍基地の北ゲートの平和的な封鎖行動を実施した。この基地は、核弾頭1個だけで長崎原爆の5倍の破壊力を持つトライデント型ミサイルを搭載した原子力潜水艦の母港である。実際に封鎖した時間は、片側通行を強いた時間も含め1時間弱とわずかではあるが、国際法違反の核戦争準備という犯罪に対する、被爆者を含む逮捕を覚悟した日本市民の行動は、スコットランドと英国の市民に、日本からの核廃絶の強いメッセージを送ることができた。事実、私たちの行動を現地のメディアは大きくかつ好意的に報道した。

この行動は、昨年10月から1年間続けられている、ファスレーン基地を世界の市民の協力で封鎖しイギリス政府にその撤去をせまるキャンペーン「ファスレーン365」の一環として行われたものである。

## 25日のストーリー

現場には午前10時15分頃到着して準備を始めた。昼前には地元のクエーカーの人たち約100名が支援に駆けつけてくれた。基地ゲート前での原爆パネルの展示や、長崎平和公園の「平和の泉」から持ってきた水を参加者の手に注ぎかけるといふ即席のセレモニーと続く。

封鎖行動は、現地時間13時58分頃、先ずわれわれのメンバーのうち4人の女性と1人の若い男性が、折り鶴をゲート入り口に並べてそのすぐ後ろに座り込むことで、ゲートの通行を遮断することで始まった。5人は互いに手をつないで「原爆許すまじ」を歌ったが、しばらくして警察官がまず折り鶴を撤去、その後5名の手を引いて歩道に排除した。

「折り鶴封鎖」の5名が座り込んでいる最中に、別の5名のグループ（福岡県在住の大学教授2名、長崎の被爆者、それに、フィンランド人でファスレーン365運営グループの女性）が、排除することが困難な「ロックオン」と呼ばれる方法での封鎖を試みた。これは、筒状のものの中で互いに手と手をカラビナでロックして、警察が簡単に一人一人に切り離せないようにする仕掛けで、現地の活動でよく行われる手法である。われわれは日本的なカラーを出すために、筒として大きな孟宗竹を日本から持ち込んだ。

一組の3人は首尾よく道路に展開し、ロックオンを成立させることができた。もう一組の2人は、道路に出たところで警察官に拘束された。警察はこの2名を拘束したその位置の道路上で保持し続け、3名の「ロックオン」に対しては通常のように専門のカットングチームの到着を待って、道路上で丁寧にこれを解除した。

拘束時や取り調べにおける警官の態度はきわめて丁寧かつ紳士的で、手錠なども使用されなかった。5名はクライドバンク警察署に護送され、“breach of the peace”という罪名を告げられた。1名はその日のうちに、他の4名も翌日の昼過ぎに無条件で釈放された。結局何の罪にも問われず、調書や写真などの記録は全て破棄され、

押収した孟宗竹なども返還される。

## メディア報道と市民集会への参加

現地の翌日の新聞は日本チームの行動を大きく報道した。スコツマンは日本チームのメンバー数名の発言にスペースを割き、また長崎からの参加者2人の被曝体験も掲載するなど好意的であった。

翌26日は、釈放された4名も合流して昼食を取った後、地元ヘレンズバラの平和運動グループの歓迎集会に参加した。27日には一行はエディンバラでのガーデンパーティーに招待され、市議会議員のイーワン・エイトキン氏<sup>1</sup>、国会議員のナイジェル・グリフィス氏<sup>2</sup>はじめ、十数人の市民と懇談した。(グリフィス議員は、3月にブレア首相がトライデント更新を議会にかけた際、これに反対票を投ずるために閣僚を辞めた人である。)席上、桜の木の贈呈のセレモニーが行われ、また、森口正彦氏は、長崎から持参した被曝瓦をグリフィス議員に贈呈した。

## 成果と反省点

1) 核戦争の準備という犯罪行為に対して、署名や声明文など言葉の域を超えて、わずかな時間であれ、またわずかな程度であれ、日本の市民による体を張った実際的な抑止行動を展開できた。同時に、日本市民の核兵器廃絶の強い意志をイギリス市民に届けることができた。

2) 実際的なゲート封鎖を目的とした「ロックオン」だけでなく、現場での原爆パネル展、「平和の泉」の水のセレモニー、そして折り鶴による象徴的な基地封鎖と、多様で視覚に訴えるような効果的なアクションを実施できた。折りヅルによる封鎖の成功により、禎子の折りヅルは「願い」と「祈り」のツルから「行動するツル」へと発展した。

3) 予定していた「ファスレーン宣言」と「基地司令官への手紙」を実施出来なかった。これは、忘れ物など開始時の混乱によるものである。少なくとも後者は、文面を調整の上、是非とも届けたいと思っている。

## 今後

「ファスレーン365」は今年の10月1日まで続けられ、最終日は“Big Blockade”と称して大規模な封鎖行動が予定されている。今度は既存の反核運動組織にがんばってもらいたい。

イギリス政府はトライデントの更新を決めたが、イギリスの世論の約6割、地元スコットランドでは8割がこれに反対している。特にスコットランドでは、5月の議会選挙でトライデント反対を掲げるスコットランド国民党が第一党となり、党首がスコットランド政府の首相に就任した。彼はスコットランドで核兵器を違法化すると述べており、これを市民運動が後押しすればイギリスの非核化はきわめて現実性を帯びてくる。

全ての国の核兵器は国際問題であり、被爆国日本の市民と反核運動が核廃絶運動のこのような重要な局面でなにがしかの役割を果たすことは極めて重要だ。そのことで運動の真価が問われると言っても過言ではないだろう。

-----  
<sup>1</sup> Ewan Aitken

<sup>2</sup> Nigel Griffith MP

## 日程

2007年

- 7月24日 19時 ミーティングとワークショップ。ロッホローモンド・ユースホステルにて。  
～23時 日本チーム12名とレベッカ・ジョンソン, アンナ=リネア・ルンドベルグ
- 7月25日 9時 ロッホローモンド・ユースホステルを出発, ファスレーン基地, クールポート核弾薬庫などをマイクロバス車上から視察後, 10時過ぎにファスレーン基地に到着
- 10時 ファスレーン基地に到着, 準備開始  
原爆写真・絵画パネル展示
- 13時15分 平和の水のセレモニー
- 13時18分 折り鶴封鎖開始
- 14時頃 バンブー・ロックオン, 拘束
- 14時4分 片側交通再開
- 15時頃 全面交通再開
- 19時頃? 森口さん釈放
- 7月26日 13時30分頃 残りの4名釈放
- 16時過ぎ ヘレンズバラでの歓迎集会
- 18時 ファスレーン・ピースキャンプ訪問
- 18時頃 ロッホファイン湖畔の海鮮料理屋で会食
- 7月27日 9時過ぎ ロッホローモンド・ユースホステルを出発。エジンバラへ  
正午頃 エジンバラでのガーデンパーティー  
1時前 現地解散。

## 当日拘束・留置された人

アンナ=リネア・ルンドベルグ, 上山耕平, 豊島耕一, 三好永作, 森口正彦